

国際人種差別撤廃デー講演会・合同祈祷集会

シオニズム運動における植民地主義(入植)の1世紀、 構造的暴力(占領)の半世紀――

〈10.7〉ガザ蜂起と軍事侵攻は突然始まったのではない

3・21

1960年3月21日 南アフリカにおけるアパルトヘイト（法による人種隔離・差別政策（1948年～））による「パス法」に反対し、シャープビル警察署の前で起こった抗議デモに対し警察が発砲しました。69人の死者、180人以上が負傷する大惨事となりました。1990年代初頭になるまでアパルトヘイトは継続され差別撤廃を求めるリーダーたちが投獄され続けました。

国連は3月21日を「国際人種差別撤廃デー」と定め（1966年）人種差別撤廃のアクションが世界中で行われてきました。

現代日本社会も人種差別が蔓延りその猛威はますます激しくなっています。差別の根を内包する自己、制度、キリスト教に対しても批判的な眼差しをむける必要があります。差別に抗う取り組みの道行は険しいものであるがゆえに、志をもつ仲間とつながり合いたいと思います。人種差別に抗する行動や変化へ一緒に向き直っていこうと願っています。

第一部は早尾貴紀（はやお たかのり）さんを講師にお招きし、パレスティナへの民族浄化攻撃が「宗教的確執」「積年の信条の違いによる衝突」などではなく、人種主義と植民地主義支配であることを深く学ぶ予定です。

第二部はいのちの抗いへの弾圧を受けた人々を追悼する時を持ちます。ぜひ、ご参集ください。

第一部

● 講演会 ●

午後7時～8時30分

講演 「シオニズム運動における植民地主義（入植）の1世紀、構造的暴力（占領）の半世紀――〈10.7〉ガザ蜂起と軍事侵攻は突然始まったのではない」

講師 早尾貴紀さん

講師紹介 はやお たかのり さん
東北大学文学部卒業/東北大学大学院経済学研究科博士課程修了、博士（経済学）へブライ大学及びハイファ大学客員研究員などを経て現在、東京経済大学教授。



主な著作

『ユダヤとイスラエルのあいだー民族/国民のアポリア』（青土社2008年、新装版2023年）、『国ってなんだろうーあなたと考えたい「私と国」の関係』（平凡社 2016年）『希望のディアスポラー移民・難民をめぐる政治史』（春秋社2020年）、『パレスティナ/イスラエル論』（有志舎 2020年）ほか

日時

2024年3月21日（木）

午後7時～9時

開場 午後6時半

場所

日本キリスト教会 柏木教会

〒169-0074 東京都新宿区北新宿3-1-18

JR中央総武線 大久保駅北口から徒歩 約5分

JR山手線 新大久保駅から徒歩 約10分

参加

会場参加

オンライン（zoom）参加は前日（20日）午後5時までのお申し込み要

参加費 無料

申し込み

オンライン（zoom）参加は前日午後5時までにフォームでお申し込みください

申し込みフォーム <https://x.gd/r2cbG>

● 黙想のとき ●

第二部

午後8時30分～9時

参加申込みはこちら



パレスチナの「ガザ地区」があのような小さな土地として存在していることも、またその住民のほとんどが難民であることも、そして難民たちがイスラエル領に故郷を奪われたことで抵抗運動を継続していることも、そしてだからこそイスラエルがパレスチナ難民の存在をとりわけ敵視していることも、歴史的文脈があります。これを「宗教対立」とか「暴力の連鎖」とか捉えることは単純化であり、端的に間違いなのですが、そのような短絡はつねに支配者の側に都合の良い言説になりがちです。しかし私たちは「対立」とか「紛争」というふうに関人事のように語るわけにはいきません。なぜなら、このイスラエル建国を強行した欧米世界の中東に対する植民地主義に、日本も列強の一角として深く関わってきたからです。そして戦後、イスラエル建国後の状況、とくにイスラエルによるパレスチナ占領に対しても、日本はアメリカ合衆国とともに「和平」の名の下に占領を固定化するような介入を続けてきました。〈10.7〉ガザ蜂起はこうした背景を知らなくてはとうてい理解できないのです。（講師より）

